

Oracle® Calendar

リソース・キット

リリース 2 (9.0.4.2)

部品番号 : B14124-04

2006 年 8 月

Oracle Calendar リソース・キット, リリース 2 (9.0.4.2)

部品番号 : B14124-04

原本名 : Oracle Calendar Resource Kit, Release 2 (9.0.4.2)

原本部品番号 : B10894-06

原本著者 : Tanya Correia

原本協力者 : Steve Carbone、Michel Rouse、Stephen Schleifer、David Wood

Copyright © 1993, 2006, Oracle. All rights reserved.

制限付権利の説明

このプログラム（ソフトウェアおよびドキュメントを含む）には、オラクル社およびその関連会社に所有権のある情報が含まれています。このプログラムの使用または開示は、オラクル社およびその関連会社との契約に記された制約条件に従うものとします。著作権、特許権およびその他の知的財産権と工業所有権に関する法律により保護されています。

独立して作成された他のソフトウェアとの互換性を得るために必要な場合、もしくは法律によって規定される場合を除き、このプログラムのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイル等は禁止されています。

このドキュメントの情報は、予告なしに変更される場合があります。オラクル社およびその関連会社は、このドキュメントに誤りが無いことの保証は致し兼ねます。これらのプログラムのライセンス契約で許諾されている場合を除き、プログラムを形式、手段（電子的または機械的）、目的に関係なく、複製または転用することはできません。

このプログラムが米国政府機関、もしくは米国政府機関に代わってこのプログラムをライセンスまたは使用する者に提供される場合は、次の注意が適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS

Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the Programs, including documentation and technical data, shall be subject to the licensing restrictions set forth in the applicable Oracle license agreement, and, to the extent applicable, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software--Restricted Rights (June 1987). Oracle Corporation, 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このプログラムは、核、航空産業、大量輸送、医療あるいはその他の危険が伴うアプリケーションへの用途を目的としておりません。このプログラムをかかる目的で使用する際、上述のアプリケーションを安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（**redundancy**）、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。万一かかるプログラムの使用に起因して損害が発生いたしましても、オラクル社およびその関連会社は一切責任を負いかねます。

Oracle、JD Edwards、PeopleSoft、Retek は米国 Oracle Corporation およびその子会社、関連会社の登録商標です。その他の名称は、他社の商標の可能性がありま。

このプログラムは、第三者の Web サイトへリンクし、第三者のコンテンツ、製品、サービスへアクセスすることがあります。オラクル社およびその関連会社は第三者の Web サイトで提供されるコンテンツについては、一切の責任を負いかねます。当該コンテンツの利用は、お客様の責任になります。第三者の製品またはサービスを購入する場合は、第三者と直接の取引となります。オラクル社およびその関連会社は、第三者の製品およびサービスの品質、契約の履行（製品またはサービスの提供、保証義務を含む）に関しては責任を負いかねます。また、第三者との取引により損失や損害が発生いたしましても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

目次

はじめに	iii
ドキュメントのアクセシビリティについて	iv
関連ドキュメント	iv
サポートおよびサービス	iv
 1 Oracle Calendar リソース・キットの概要	
主要な機能	1-2
個人の時間管理	1-2
グループおよびリソースのスケジューリング	1-2
リアルタイム・スケジューリング	1-3
定期的な会議	1-3
アクセス権	1-3
代理権	1-3
同期	1-3
複数プラットフォームのサポート	1-4
異なるアプリケーション間でのスケジューリング	1-4
Oracle Calendar クライアント	1-4
Oracle Connector for Outlook	1-4
Oracle Calendar Web Client	1-4
Oracle Calendar Desktop Client	1-5
Oracle Calendar Sync	1-5
使用する Calendar クライアント	1-5
Oracle Sync Server	1-6
 2 Oracle Connector for Outlook	
インストール手順	2-2
システム要件	2-2
Oracle Connector for Outlook のインストール前の要件	2-3
Oracle Connector for Outlook のインストール	2-3
Outlook アドインの無効化	2-4
Microsoft Outlook のアップグレード	2-4
Oracle Connector for Outlook の構成	2-4
Outlook 98/2000 を使用したプロファイルの管理	2-4
新規プロファイルの作成	2-4
Oracle Connector for Outlook を既存プロファイルに追加	2-6
Outlook 2002/2003 を使用したプロファイルの管理	2-6

新規プロファイルの作成	2-6
Oracle Connector for Outlook を既存プロファイルに追加	2-7
Calendar Server への接続	2-7
IMAP メール・サーバーへの接続	2-8
SMTP メール・サーバーへの接続	2-8
トラブルシューティングおよび FAQ	2-9

3 Oracle Calendar Web Client

システム要件	3-2
Oracle Calendar Web Client のインストール	3-2
トラブルシューティングおよび FAQ	3-2

4 Oracle Calendar Desktop Client

Windows でのインストール手順	4-2
システム要件	4-2
Oracle Calendar Desktop Client for Windows のインストール	4-2
Macintosh でのインストール手順	4-2
システム要件	4-2
Oracle Calendar Desktop Client for Macintosh のインストール	4-3
Linux でのインストール手順	4-3
システム要件	4-3
Oracle Calendar Desktop Client for Linux のインストール	4-4
システム要件	4-4
Oracle Calendar Desktop Client for Solaris のインストール	4-4
トラブルシューティングおよび FAQ	4-5

5 Oracle Sync Server

6 Oracle Calendar Sync

Oracle Calendar Sync for Palm (Windows) のインストール手順	6-2
システム要件	6-2
Oracle Calendar Sync for Palm (Windows) のインストール	6-2
Oracle Calendar Sync for Palm (Macintosh) のインストール手順	6-3
システム要件	6-3
Oracle Calendar Sync for Palm (Macintosh) のインストール	6-3
Oracle Calendar Sync for Pocket PC のインストール手順	6-4
システム要件	6-4
Oracle Calendar Sync for Pocket PC のインストール	6-5
トラブルシューティングおよび FAQ	6-6

はじめに

この章の内容は次のとおりです。

- [ドキュメントのアクセシビリティについて](#)
- [関連ドキュメント](#)
- [サポートおよびサービス](#)

ドキュメントのアクセシビリティについて

オラクル社は、障害のあるお客様にもオラクル社の製品、サービスおよびサポート・ドキュメントを簡単にご利用いただけることを目標としています。オラクル社のドキュメントには、ユーザーが障害支援技術を使用して情報を利用できる機能が組み込まれています。HTML 形式のドキュメントで用意されており、障害のあるお客様が簡単にアクセスできるようにマークアップされています。標準規格は改善されつつあります。オラクル社はドキュメントをすべてのお客様がご利用できるように、市場をリードする他の技術ベンダーと積極的に連携して技術的な問題に対応しています。オラクル社のアクセシビリティについての詳細情報は、Oracle Accessibility Program の Web サイト <http://www.oracle.com/accessibility/> を参照してください。

外部 Web サイトのドキュメントのアクセシビリティについて

このドキュメントにはオラクル社およびその関連会社が所有または管理しない Web サイトへのリンクが含まれている場合があります。オラクル社およびその関連会社は、それらの Web サイトのアクセシビリティに関しての評価や言及は行っておりません。

関連ドキュメント

- Oracle Connector for Outlook のオンライン・ヘルプ
- Oracle Calendar Web Client のオンライン・ヘルプ
- Oracle Calendar Desktop Client for Windows のオンライン・ヘルプ
- Oracle Calendar Desktop Client for Macintosh のオンライン・ヘルプ
- Oracle Calendar Desktop Client for Linux のオンライン・ヘルプ
- Oracle Calendar Desktop Client for Solaris のオンライン・ヘルプ
- Oracle Calendar Sync for Palm (Windows) のオンライン・ヘルプ
- Oracle Calendar Sync for Palm (Macintosh) のオンライン・ヘルプ
- Oracle Calendar Sync for Pocket PC (Windows) のオンライン・ヘルプ

サポートおよびサービス

次の各項に、各サービスに接続するための URL を記載します。

Oracle サポート・サービス

オラクル製品サポートの購入方法、および Oracle サポート・サービスへの連絡方法の詳細は、次の URL を参照してください。

<http://www.oracle.co.jp/support/>

製品マニュアル

製品のマニュアルは、次の URL にあります。

<http://otn.oracle.co.jp/document/>

研修およびトレーニング

研修に関する情報とスケジュールは、次の URL で入手できます。

<http://www.oracle.co.jp/education/>

その他の情報

オラクル製品やサービスに関するその他の情報については、次の URL から参照してください。

<http://www.oracle.co.jp>

<http://otn.oracle.co.jp>

注意： ドキュメント内に記載されている URL や参照ドキュメントには、Oracle Corporation が提供する英語の情報も含まれています。日本語版の情報については、前述の URL を参照してください。

Oracle Calendar リソース・キットの概要

Oracle Calendar は、いつでも、どこからでもスケジュールを把握できる多彩な機能を備えた、直感的な時間管理ソリューションです。Oracle Calendar は、Microsoft Outlook と完全に統合されているだけでなく、Oracle Collaboration Suite のあらゆる利点を活用できる、優れたソフトウェア・インフラストラクチャを提供します。

このリソース・キットでは、Oracle Calendar クライアントと Oracle Sync Server のインストール手順、FAQ、および基本的なトラブルシューティングの手順について説明します。Oracle Calendar の使用方法の詳細は、各 Calendar クライアントに付属のオンライン・ヘルプを参照してください。

この章の内容は次のとおりです。

- [主要な機能](#)
- [Oracle Calendar クライアント](#)

主要な機能

ここでは、Oracle Calendar によって提供される次の主要な機能について説明します。

- [個人の時間管理](#)
- [グループおよびリソースのスケジューリング](#)
- [リアルタイム・スケジューリング](#)
- [定期的な会議](#)
- [アクセス権](#)
- [代理権](#)
- [同期](#)
- [複数プラットフォームのサポート](#)
- [異なるアプリケーション間でのスケジューリング](#)

個人の時間管理

予定表ビュー

Oracle Calendar では、複数の予定表ビューを使用して、情報を簡単に移動できます。Oracle Calendar Desktop Client にも「受信トレイ」ビューがあります。このビューでは、新規会議およびイベントの参照、承諾、拒否を行えます。Oracle Connector for Outlook で Microsoft の「Outlook Today」ビューを使用することもできます。このビューには、その日の会議、イベントおよびタスクの概要が表示され、新しい電子メール、ボイスメールおよび FAX に簡単にアクセスできます。

タスク管理

すべてのタスクを優先度と完了ステータスに基づいて管理およびソートできます。また、タスクにリマインダを設定したり、テキスト詳細やドキュメントを追加できます。

メモおよびイベント

メモやイベントを設定して、同僚の外出予定から、休日、あるいは家族の誕生日まで、すべてを把握することができます。

アラートの設定

Oracle Calendar では、予定表のエントリや、電子メール、ワイヤレスおよびボイス・クライアントから予定表に新しく作成されたエントリ、変更または削除されたエントリの通知にリマインダを設定できます。

アドレス帳

Oracle Calendar Desktop Client および Oracle Connector for Outlook のアドレス帳では、すべての連絡先の情報の概要をビジネス用、個人用またはユーザーが指定した他のカテゴリ別にソートして表示できます。誕生日や他の特別なイベントなどを忘れないよう、連絡先にメモを追加することもできます。

グループおよびリソースのスケジューリング

他の Calendar ユーザーが使用しているプラットフォームや Calendar クライアントに関係なく、これらのユーザーとの会議やイベントのスケジュールを設定できます。

管理者は、リソースがすべての接続ユーザーに対して、先に予約したユーザーが優先して使用できるように、共有プロパティを指定することができます。一連のパラメータ（場所、サイズ、リソースの種類など）に基づいてリソースを検索し、他のユーザーに出席依頼するのと同じようにリソースに対して予約依頼をして、その期間中他のユーザーが利用できないように予約できます。

Oracle Calendar ではまた、管理者による承認が必要なリソースの予約も可能です。承認が必要なリソースを予約する場合、リソースの管理者に電子メールが送信され、管理者から依頼を承認または拒否する電子メールが返信されます。

競合のチェック

Oracle Calendar の競合チェックおよび解決機能を使用すると、会議のスケジューリング・プロセスを高速化および簡略化し、出席依頼者の欠席率を下げることができます。Oracle Calendar Web Client または Oracle Calendar Desktop Client を使用して会議をスケジューリングする場合、「競合チェック」ボタンを選択して、出席依頼者やリソースの競合を表示するだけで操作は完了です。競合が検出された場合、「日付と時間の提案」機能を使用して、すべての当事者に都合のよい日時を参照できます。全員の予定を手動で調べて競合を解決して、会議のスケジュールを再設定する必要はありません。Oracle Connector for Outlook の自動選択機能も同様の機能を提供します。

グループ・ビュー

会議を作成する前に、グループ・ビューを使用して、出席依頼者のスケジュールに最適な日時を素早くチェックし、希望の時間枠で利用できる会議室を確認できます。対象ユーザーとリソースの時間を表示する複合ビューに全員の予定表を表示できます。このビューでは、都合の悪い時間が赤で表示され、全員の空き時間を一目で把握できます。

リアルタイム・スケジューリング

Oracle Calendar のリアルタイム・テクノロジーにより、すべての接続ユーザーは、他のユーザーのスケジュールを正確にチェックできます。これは、すべての依頼に Calendar Server から直接アクセスするため、ユーザーは自分の実際の予定を表示する前に、情報（会議の承諾 / 辞退）を公開する必要はありません。たとえば、Bob は飛行機に乗っている数時間は自分のカレンダーにアクセスできません。その間に、Allison と Peter が彼に別の 2 つの会議への出席を依頼しようとしています。Allison が会議への出席依頼を作成した後、Peter が Bob の予定表を開くと、その情報が即座に表示されるため、Bob が Allison の出席依頼に返信していない場合も、Peter は Bob に対して、Allison と同じ時間の出席を依頼することはできません。

定期的な会議

会議を作成したり、既存の会議を変更する際、毎日、週に 1 度、2 週間に 1 度、月に 1 度、年に 1 度など、任意の間隔数を使用して会議を繰り返すように指定できます。日付エディタを使用して、会議を特定の日に繰り返すように設定することもできます。

アクセス権

他のユーザーが自分の予定表のどの部分にアクセスできるようにするかを制御できます。たとえば、John Smith には「標準」としてマークされたすべての予定表エントリを表示するアクセス権を、Jane Doe には「標準」および「個人用」としてマークされたすべての予定表エントリを表示するアクセス権を付与することができます。ユーザーごとにアクセス権を付与する必要はありません。すべてのユーザーに同じアクセス権を付与することもできます。

代理権

他のユーザーに、自分のかわりにカレンダー・イベントの作成や変更を行ったり、カレンダー・イベントに返信する代理権を付与できます。また代理権を付与する際、特定の代理ユーザーが作成および変更できるカレンダー・エントリのタイプを選択できます。たとえば、John Smith には、会議、メモ、終日イベントを変更する権限を、Jane Doe にはタスクを変更する権限のみを付与できます。

同期

Oracle Calendar では、2 つの方法でカレンダーや連絡先データを同期することができます。1 つは Oracle Calendar Sync を使用する方法です。これは、Oracle Calendar Desktop Client と Palm および Pocket PC デバイスを同期する、デスクトップとクレードル間のソリューションで

す。もう1つは Oracle Sync Server を使用する方法です。これは、SyncML プロトコルを使用して、インターネットを介してカレンダーや連絡先などのアプリケーション・データを同期させるソリューションです。Oracle Sync Server は、すべての Oracle Calendar Server と SyncML 対応デバイスの間でカレンダー・データを同期します。

複数プラットフォームのサポート

Oracle Calendar Web Client、Oracle Connector for Outlook、Oracle Calendar Desktop Client for Windows、Oracle Calendar Desktop Client for Macintosh、Oracle Calendar Desktop Client for Linux および Oracle Calendar Desktop Client for Solaris、ワイヤレスおよび同期アプリケーションとの統合など、オンラインおよびオフラインの広範なアクセス・オプションを使用して、自分のカレンダーをいつでもどこからでも継続的に制御できます。

異なるアプリケーション間でのスケジューリング

Oracle Calendar の時間管理機能は、他の Oracle Collaboration Suite アプリケーションと統合されています。たとえば、Oracle Connector for Outlook と Oracle Calendar Web Client から直接 Web 会議をスケジューリングし、参加できます。

Oracle Calendar クライアント

Oracle Calendar は、Calendar Server、[Oracle Sync Server](#) および次のクライアントで構成されています。

- [Oracle Connector for Outlook](#)
- [Oracle Calendar Web Client](#)
- [Oracle Calendar Desktop Client](#)
- [Oracle Calendar Sync](#)

要件に最も適した Calendar クライアントを判断する必要がある場合は、[使用する Calendar クライアント](#)の Calendar クライアント比較表を参照してください。

Oracle Connector for Outlook

Oracle Connector for Outlook は、Microsoft Outlook デスクトップ・クライアントと強力な Oracle Collaboration Suite バックエンドを組み合わせ、Outlook ユーザーにとって親しみやすい電子メール、連絡先、タスクの統合機能を提供します。さらに、リアルタイムのカレンダー、FAX およびボイスメール機能を追加し、ワイヤレスとボイス、ファイル・サービス、Web 会議、検索機能など、Oracle Collaboration Suite の他の機能へのアクセスも提供します。

製品、システム要件、インストール手順、FAQ およびトラブルシューティングの詳細は、[Oracle Connector for Outlook](#) を参照してください。

Oracle Calendar Web Client

Oracle Calendar Web Client は、インターネットを介してどこからでもアクセスできるアプリケーションで、自分の時間を効率的に管理するために必要なすべてのツールを提供します。モバイル・ユーザーは、Oracle Calendar Web Client の直感的なインタフェースを使用して、他のユーザーとの会議のスケジューリング、競合のチェック、リソースの予約、メモの作成およびタスクの管理を行えます。Oracle Calendar アカウントのないユーザーのために予定表を公開したり、パートナーへのスケジュールの送信、全従業員に対するリソースの予約状況の公開などの機能も使用できます。

製品、システム要件、インストール手順、FAQ およびトラブルシューティングの詳細は、[Oracle Calendar Web Client](#) を参照してください。

Oracle Calendar Desktop Client

Oracle Calendar Desktop Client は、あらゆる機能を備えた直感的なファット・クライアントで、カレンダー・データへの最速かつ完全なアクセスを提供します。また、広範な個人情報管理機能と、強力なグループおよびリソース・スケジューリング機能も搭載しています。最新の Windows および Mac、Linux、Solaris プラットフォームをサポートする Oracle Calendar Desktop Client は、どのような異種環境にも適合し、様々なオペレーティング・システムを使用するユーザー同士がシームレスにスケジュールを設定できます。

Oracle Calendar Desktop Client、システム要件、インストール手順、FAQ およびトラブルシューティングの詳細は、[Oracle Calendar Desktop Client](#) を参照してください。

Oracle Calendar Sync

Oracle Calendar には、Oracle Calendar Sync for Palm（Windows 用および Macintosh 用）および Oracle Calendar Sync for Pocket PC が含まれています。Oracle Calendar Sync では、Oracle Calendar データを PDA と同期することができます。会議、メモ、終日イベント、連絡先およびタスクを携帯端末と同期し、デバイスの同期プロセスを使用して Oracle Calendar に更新内容をアップロードできます。Oracle Calendar Sync では、会議の参加者やリソース、および参加者のステータスなどの情報へのアクセスを提供することで、PDA 機能を個人情報管理以外の分野にも利用できるようにします。

Oracle Calendar Sync、システム要件、インストール手順、FAQ およびトラブルシューティングの詳細は、[Oracle Calendar Sync](#) を参照してください。

使用する Calendar クライアント

適切な Oracle Calendar クライアントを判別する必要があります。次の表に、Oracle Connector for Outlook、Oracle Calendar Web Client および Oracle Calendar Desktop Client の主な類似点と相違点を一覧します。

表 1-1 Oracle Calendar クライアントの機能の比較

機能	Oracle Calendar Web Client	Oracle Calendar Desktop Client	Oracle Connector for Outlook
カレンダー			
情報へのリアルタイム・アクセス	可	可	可
グループ・スケジューリング	可	可	可
予定および会議の作成	可	可	可
終日イベントの作成	可	可	可
タスクの作成	可	可	可
連絡先の作成	不可	可	可
空き時間 / 予定が入っている時間の表示	可	可	可
出席を依頼する際に、共通の空き時間を提案	可	可	可
他のユーザーの予定表を開く	可	可	可
他のユーザーの予定表で代理として作業	可	可	可
リソースの設定	可	可	可
承認が必要なリソースのサポート	可	可	可
履歴および付箋へのアクセスおよび管理	不可	不可	可

表 1-1 Oracle Calendar クライアントの機能の比較（続き）

機能	Oracle Calendar Web Client	Oracle Calendar Desktop Client	Oracle Connector for Outlook
他のユーザーが作成したカレンダー・エントリへの個人用メモの追加	不可	不可	可
Web 会議のスケジュールリング	可	不可	可
メール			
メールへのアクセスおよび管理（サーバー側ルールおよび不在時のアシスタントを含む）	不可	不可	可
リマインダ			
電子メール・リマインダの送信	可	可	可
ワイヤレス・リマインダの送信	可	可	可
タスク			
タスク・カテゴリの設定	不可	不可	可
タスクの優先度の設定	可	可	可
タスクを代理ユーザーとして管理	可	可	可
カテゴリ			
会議およびイベント・カテゴリの設定	不可	不可	可
連絡先カテゴリの設定	不可	可	可
ユーザー設定項目			
自動ログインの有効化	可	可	可
グローバル・カレンダー・アクセス	可	不可	不可
他の機能			
テキスト検索	不可	可	可
オフライン作業	不可	可	可
連絡先の共有	不可	可	不可

Oracle Sync Server

Oracle Sync Server は、標準の HTTP 接続を介して Oracle Calendar Server との間で双方向の直接同期を提供し、インターネット・アクセスが可能な任意の SyncML 準拠デバイスまたはアプリケーションに対してカレンダーのインフラストラクチャを提供します。

Oracle Sync Server、デバイス固有の考慮事項、および SyncML 対応デバイスの構成方法の詳細は、[Oracle Sync Server](#) を参照してください。

Oracle Connector for Outlook

Oracle Connector for Outlook は、リアルタイムのカレンダ機能、高度なグループとリソースのスケジューリング機能、および電子メール、ボイスメール、FAX メッセージに対して単一の一元管理受信トレイを使用する Unified Messaging 機能を提供することで、Outlook の機能を拡張および向上させるカレンダおよびメッセージ・サービス・プロバイダです。

Oracle Connector for Outlook の主な利点は、デスクトップで使い慣れた Outlook インタフェースを使用しながら、Microsoft Exchange Server ではなく Oracle Calendar Server および電子メール・サーバーにアクセスできることです。

Oracle Calendar Server では、ユーザーのすべてのカレンダが 1 つのデータベースに格納されます。他のユーザーの空き時間や先約済の時間を参照するたびに、未確認の会議を含むユーザーのスケジュールの最新情報が表示されます。同様に、知らない間に会議が移動または変更された場合、それについて説明する電子メールのコピーを開かなくても、「予定表」フォルダの会議を開くたびに、Oracle Calendar Server から最新バージョンを取得できます。

一方、Microsoft Exchange Server のカレンダ機能はメッセージ・ベースです。すべての会議は電子メール・メッセージとして作成、格納、転送および取得されます。この方法には、多くの制約があります。たとえば、会議を作成してから同僚がそれを承諾するまでの間、他のユーザーは同僚のカレンダを見てもその会議がいつ開かれるかわかりません。実際、同僚が承諾するまで、「予定表」フォルダには会議が表示されないため、会議が存在すること自体誰にもわかりません。

- [インストール手順](#)
- [Oracle Connector for Outlook の構成](#)
- [トラブルシューティングおよび FAQ](#)

インストール手順

この項の内容は次のとおりです。

- システム要件
- Oracle Connector for Outlook のインストール前の要件
- Outlook アドインの無効化
- Oracle Connector for Outlook のインストール
- Microsoft Outlook のアップグレード

システム要件

表 2-1 Oracle Connector for Outlook のシステム要件

要件	値
オペレーティング・システム	<ul style="list-style-type: none"> ■ Windows NT 4.0 ■ Windows 98 ■ Windows 2000 ■ Windows XP Professional SP2 <p>Windows NT、2000 および XP に Oracle Connector for Outlook をインストールするには管理者権限が必要です。</p>
ディスク容量	ユーザーの IMAP4 メールボックスのサイズに相当する空きディスク領域
RAM	ご使用の Microsoft Outlook クライアントの RAM 要件を参照してください。
Outlook	<ul style="list-style-type: none"> ■ Outlook 98 ■ Outlook 2000 ■ Outlook 2002 ■ Outlook 2003 <p>注意：英語以外の言語へのローカライゼーションには、ネイティブ言語版または Multilingual User Interface Pack (MUI) が必要です (サポートされている言語を参照)。</p>
Calendar Server	<ul style="list-style-type: none"> ■ Oracle Calendar Server 5.5 ■ Oracle Calendar Server 9.0.4 (Oracle Calendar のほとんどの新機能に必要)
電子メール・サーバー	<p>Oracle Connector for Outlook に含まれる送信メール用の SMTP サーバー</p> <p>Oracle IMAP4 Server 9.0.3 以上</p> <p>オープン標準の SMTP および IMAP4 リファレンス実装 (Cyrus およびワシントン大学) に基づいて実装されているその他の電子メール・サーバー</p>

表 2-1 Oracle Connector for Outlook のシステム要件（続き）

要件	値
PDA 同期のコンジッ ト	<ul style="list-style-type: none"> ■ PocketMirror 2.04 または 3.0（3.0 を推奨） ■ PocketJournal ■ Desktop To Go 2.5 ■ Desktop To Go 2.509（Outlook 2002 の場合のみ） ■ PSIWIN 2.3 または 2.31 ■ ActiveSync 3.0、3.1 または 3.5 <p>注意： Oracle Collaboration Suite Release 2 Patch Set 1（9.0.4.2.0）では、バージョン 3.7.1 以下の ActiveSync をサポートしています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ HotSync Manager 4.0（Windows XP の場合のみ）
デバイス	<p>Oracle Connector for Outlook では、次のデバイスの動作が保証されています。類似デバイスでも動作しますが、エンド・ユーザーの操作方法が異なります。</p> <p>Pocket PC</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Compaq iPAQ Pocket PC 2002 - Model 3870 ■ Compaq iPAQ Pocket PC 2002 - Model 3970 ■ HP iPAQ Pocket PC 2003 - Model h 1945 <p>Palm</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Palm III（3Com） ■ Palm V Handheld <p>Blackberry 6710 - Wireless Handheld</p>

Oracle Connector for Outlook のインストール前の要件

- サポートされているプラットフォームに、サポートされているバージョンの Outlook をインストールする必要があります。
- Windows NT、2000 および XP に Oracle Connector for Outlook をインストールするには管理者権限が必要です。
- Outlook 98 および Outlook 2000 は、「企業 / ワークグループ」モードでインストールする必要があります。「ツール」メニューの「オプション」を選択し、「メール配信」を選択して、「メールサポートの再設定」をクリックして、Outlook の構成を確認します。
- 情報が失なわれないように、アップグレード前にオフライン・フォルダを同期化することをお勧めします。

Oracle Connector for Outlook のインストール

ほとんどの場合、Oracle Connector for Outlook は、サイレント・インストールを使用してインストールおよび構成されます。このプロセスを実行していない場合は、itweb.oraclecorp.com の Web ページで詳細を参照してください。ご使用のマシンでサイレント・インストール・プロセスが失敗した場合、またはご使用のマシンに標準以外のビルドまたはカスタム・ビルドがインストールされている場合は、Oracle Connector for Outlook を手動でインストールおよび構成する必要があります。

Oracle Connector for Outlook を手動でインストールするには、次の手順を実行します。

1. Oracle Connector for Outlook をインストールする前に、すべての Windows アプリケーションを終了します。

2. 旧バージョンからアップグレードする場合で、インストールされている言語を追加または変更する場合は、con_outlook_904x.exe の後に、/Lang スイッチを指定して実行します。それ以外の場合は、con_outlook_904.exe ファイルをダブルクリックします。画面上のインストール手順に従います。

注意： POP3 と IMAP4 プロトコル間の競合を避けるために、Microsoft の Internet Mail または Exchange サービス・プロバイダを Oracle Connector for Outlook と同じプロファイルに設定しないでください。

Outlook アドインの無効化

Oracle Connector for Outlook でインストールされたアドインとの競合を避けるために、Microsoft Exchange に固有の Outlook アドインは無効にすることをお勧めします。詳細は、Oracle Connector for Outlook のオンライン・ヘルプの「アドインの形式」を参照してください。

Microsoft Outlook のアップグレード

使用している Outlook のインストールをアップグレードする場合は、アップグレード後に Oracle Connector for Outlook を再インストールする必要があります。インストール手順の詳細は、[Oracle Connector for Outlook のインストール](#)を参照してください。

Oracle Connector for Outlook の構成

この項の内容は次のとおりです。

- [Outlook 98/2000 を使用したプロファイルの管理](#)
- [Outlook 2002/2003 を使用したプロファイルの管理](#)
- [Calendar Server への接続](#)
- [IMAP メール・サーバーへの接続](#)
- [SMTP メール・サーバーへの接続](#)

Outlook 98/2000 を使用したプロファイルの管理

この項の内容は次のとおりです。

- [新規プロファイルの作成](#)
- [Oracle Connector for Outlook を既存プロファイルに追加](#)

新規プロファイルの作成

Oracle Connector for Outlook サービスを使用して新規プロファイルを作成する場合、メール・サーバーおよび Calendar Server に接続するための様々な情報を入力する必要があります。

1. Outlook を閉じます。
2. Windows の「スタート」ボタンから「設定」を選択します。
3. ポップアップ・リストから「コントロール パネル」を選択し、「メール」アイコンをダブルクリックします。
4. 「プロファイルの表示」をクリックします。
5. 「追加」をクリックします。
6. 「次のインフォメーションサービスを使用する」オプションを選択し、「Oracle Connector for Outlook」チェックボックスを選択します。

7. 「プロフィール名」フィールドにプロフィール名を入力し、「次へ」をクリックします。

セットアップ・ウィザードが開きます。

- Oracle Connector for Outlook セットアップ・ウィザードの最初の画面で、「企業」オプションを選択し、LAN または VPN 接続を介して組織の Calendar Server に接続します。サードパーティのカレンダー・サービスおよびメール・サービスを使用している場合は、「ASP」オプションを選択します。Calendar Server 接続の構成を省略し、電子メール・サーバー接続に進む場合は、「Oracle Calendar アカウントなし」チェックボックスを選択します。「次へ」をクリックして先に進みます。
- 「企業」オプションを選択した場合、「サーバー名」フィールドに、サーバーのネットワーク名またはアドレス、カンマ、Calendar Server ノードのノード ID または別名の順に入力する必要があります。マスター・ノード構成を使用している場合、マスター・ノードのサーバー名のみを入力します。ノード ID は必要ありません。この画面の他のボックスで、カレンダー・アカウントのユーザー名とパスワードを指定します。マスター・ノード構成の場合、ユーザー名はユーザー ID です。必要な情報は、システム管理者にお問い合わせください。「次へ」をクリックして先に進みます。
- 「ASP」オプションを選択した場合、サービス・プロバイダが使用するドメイン ID を指定して会社を識別し、プロバイダのカレンダー・ドメイン・サービス・ホストのホスト名も指定する必要があります。この情報は、サービス・プロバイダの担当者にお問い合わせください。この画面の他のボックスに、カレンダー・アカウントのユーザー名とパスワードを入力します。「次へ」をクリックして先に進みます。
- 受信メール用の IMAP4 サーバー接続を構成します。アカウントがない場合やこの手順を省略する場合は、「IMAP4 アカウントなし」チェックボックスを選択します。それ以外の場合は、「サーバー名」フィールドに IMAP4 サーバーのホスト名を入力します。メール・アカウントとカレンダー・アカウントで同じユーザー名とパスワードを使用する場合、「Oracle Calendar サーバーと同じ設定を使用」チェックボックスを選択します。「次へ」をクリックして先に進みます。
- 「Oracle Calendar サーバーと同じ設定を使用」チェックボックスを選択しなかった場合、受信電子メール・アカウントのユーザー名とパスワードを入力する必要があります。「次へ」をクリックして先に進みます。
- 送信メール用の SMTP サーバー接続を構成します。アカウントがない場合やこの手順を省略する場合は、「SMTP アカウントなし」チェックボックスを選択します。それ以外の場合は、「サーバー名」フィールドに SMTP サーバーのホスト名を入力します。送信電子メール・サーバーでユーザー名とパスワードが必要な場合は、「このサーバーは認証が必要」チェックボックスを選択します。送信および受信電子メール・アカウントで同じユーザー名とパスワードを使用する場合、「IMAP4 サーバーと同じ設定を使用」チェックボックスを選択します。「次へ」をクリックして先に進みます。
- SMTP サーバーで認証を必要とし、IMAP4 サーバーと同じ設定を使用しないように指定した場合、SMTP サーバー用のユーザー名とパスワードを指定する必要があります。「次へ」をクリックして先に進みます。
- 送信電子メールに表示する名前と電子メール・アドレスを入力します。「次へ」をクリックして先に進みます。
- Oracle Connector for Outlook のオフライン機能を有効にする場合、「ネットワークに未接続時にこのコンピュータを使用する」チェックボックスを選択します。起動時に、Outlook をメール・サーバーおよび Calendar Server に接続するかオフラインで作業するかを選択する場合は、「次回ログオンした際にこのプロフィールを使用して接続タイプを選択」チェックボックスを選択します。「次へ」をクリックして先に進みます。
- 入力したすべての情報が正しいことを確認し、「次へ」をクリックして先に進みます。
- 個人用フォルダ・ファイルの場所を指定するか、個人用フォルダ・ファイルがない場合は新しい場所を選択します。「次へ」をクリックして先に進み、「終了」をクリックして、Oracle Connector for Outlook のセットアップを完了します。

Oracle Connector for Outlook を既存プロファイルに追加

Oracle Connector for Outlook を既存プロファイルに追加する場合、セットアップ・ウィザードは使用できません。かわりに、「Oracle Connector for Outlook」ダイアログ・ボックスに、前述の情報を直接入力します。

1. Outlook を閉じます。
2. Windows の「スタート」ボタンから「設定」を選択します。
3. ポップアップ・リストから「コントロール パネル」を選択し、「メール」アイコンをダブルクリックします。
4. 「プロファイルの表示」をクリックします。
5. 該当するプロファイルを選択し、「プロパティ」をクリックします。
6. 「Oracle Connector for Outlook」を選択し、「プロパティ」をクリックします。「Oracle Connector for Outlook」ダイアログ・ボックスが開きます。
7. [Outlook 2002/2003 を使用したプロファイルの管理の新規プロファイルの作成](#)の手順 10 に従います。

Outlook 2002/2003 を使用したプロファイルの管理

この項の内容は次のとおりです。

- [新規プロファイルの作成](#)
- [Oracle Connector for Outlook を既存プロファイルに追加](#)

新規プロファイルの作成

Oracle Connector for Outlook サービスを使用して新規プロファイルを作成する場合、「Oracle Connector for Outlook」ダイアログ・ボックスを使用して、メール・サーバーおよび Calendar Server に接続するための様々な情報を提供する必要があります。

1. Outlook を閉じます。
2. Windows の「スタート」ボタンから「設定」を選択します。
3. ポップアップ・リストから「コントロール パネル」を選択し、「メール」アイコンをダブルクリックします。
4. 「プロファイルの表示」をクリックします。
5. 「追加」をクリックします。
6. 作成するプロファイルの名前を入力し、「OK」をクリックします。
7. 「新しい電子メール アカウントの追加」オプションを選択します。
8. 「その他のサーバー」オプションを選択します。
9. 「その他のサーバー」リストから「Oracle Connector for Outlook」を選択し、「次へ」をクリックします。
10. 「Oracle Connector for Outlook」ダイアログ・ボックスに次の情報を入力します。
 - Oracle Calendar アカウントがない場合、「予定表」タブで「Oracle Calendar アカウントなし」チェックボックスを選択して、Calendar Server 接続の構成を省略します。
 - 「予定表」タブの「サーバー名」フィールドにサーバーの名前またはアドレス、カンマ、Calendar Server ノードのノード ID または別名の順に入力します。マスター・ノード構成を使用している場合、マスター・ノードのサーバー名のみを入力します。ノード ID は必要ありません。「予定表」タブの他のボックスで、カレンダー・アカウントのアカウント名とパスワードを指定します。マスター・ノード構成の場合、ユーザー名はユーザー ID です。
 - IMAP4 アカウントがない場合、「IMAP4」タブで「IMAP4 アカウントなし」チェックボックスを選択して、IMAP4 サーバー接続の構成を省略します。

- 「IMAP4」タブの「サーバー名」フィールドに IMAP4 サーバーのホスト名を入力します。メール・アカウントとカレンダー・アカウントで同じアカウント名とパスワードを使用する場合、「Oracle Calendar サーバーと同じ設定を使用」チェックボックスを選択できます。これらが異なる場合、IMAP4 サーバーのアカウント名とパスワードを入力します。
- SMTP アカウントがない場合、「SMTP」タブで「SMTP アカウントなし」チェックボックスを選択して、SMTP サーバー接続の構成を省略します。
- 「SMTP」タブの「サーバー名」フィールドに SMTP サーバーのホスト名を入力します。送信電子メール・サーバーでユーザー名とパスワードが必要な場合は、「このサーバーは認証が必要」チェックボックスを選択します。「設定」をクリックします。送信および受信電子メール・アカウントで同じユーザー名とパスワードを使用する場合、「受信メールサーバーと同じ設定を使用」チェックボックスを選択します。これらが異なる場合、SMTP アカウント名とパスワードを入力します。
- Oracle Connector for Outlook のオフライン機能を有効にする場合、「起動」タブの「オフライン使用を可能にする」チェックボックスを選択します。起動時に、Outlook をメール・サーバーおよび Calendar Server に接続するかオフラインで作業するかを選択する場合は、「接続タイプの選択」チェックボックスを選択します。
- 「OK」をクリックして、プロファイルを作成します。

Oracle Connector for Outlook を既存プロファイルに追加

Oracle Connector for Outlook を既存プロファイルに追加する手順は、新規プロファイルの作成手順とほとんど同じです。新しいプロファイルを追加するかわりに、「Oracle Connector for Outlook」ダイアログ・ボックスから既存のプロファイルを選択する点だけが異なります。

1. Outlook を閉じます。
2. Windows の「スタート」ボタンから「設定」を選択します。
3. ポップアップ・リストから「コントロール パネル」を選択し、「メール」アイコンをダブルクリックします。
4. 「プロファイルの表示」をクリックします。
5. 該当するプロファイルを選択し、「プロパティ」をクリックします。
6. 「電子メール アカウント」をクリックします。
7. 「既存の電子メールアカウントの表示と変更」オプションを選択します。
8. 「次へ」をクリックします。
9. 「Oracle Connector for Outlook」を選択し、「変更」をクリックします。「Oracle Connector for Outlook」ダイアログ・ボックスが開きます。
10. [新規プロファイルの作成](#)の手順 10 に従います。

Calendar Server への接続

Calendar Server は、Oracle Connector for Outlook にカレンダー、タスク、連絡先、メモおよび履歴を提供します。

Calendar Server 接続を構成するには、次の手順を実行します。

1. 「Oracle Connector for Outlook」ダイアログ・ボックスの「予定表」タブを選択します。
2. 次の情報を入力します。
 - 「Oracle Calendar アカウントなし」チェックボックスを選択すると、Oracle Connector for Outlook をメールのみに使用できます。
 - Calendar Server は、カレンダー・ドメイン・サービス・ホスト名とドメイン ID（サードパーティ・サービス・プロバイダを使用する場合）、またはホスト名とノード ID（企業の場合）のどちらかを使用して指定できます。マスター・ノード構成を使用してい

る場合、マスター・ノードのサーバー名のみを入力します。ノード ID は必要ありません。必要な情報は、システム管理者にお問い合わせください。

- サードパーティ・サービス・プロバイダ (ASP) のログイン・モードを使用するには、「**サーバーはドメイン サービスが必要**」チェックボックスを選択します。「**設定**」をクリックして、ドメイン ID およびカレンダー・ドメイン・サービス・ホストのリストを指定します。
- 企業のログイン・モードを使用するには、「**サーバーはドメイン サービスが必要**」チェックボックスを選択解除します。「**サーバー名**」フィールドで、サーバー・ホスト名とノード ID をカンマで区切って指定します。
- 接続するたびに Calendar Server のパスワードを入力しないようにするには、「**パスワードリストにパスワードを保存**」チェックボックスを選択します。
- 「**詳細**」ボタンをクリックすると、必要に応じて Calendar Server のポートや Calendar Server ユーザーの名前の優先表示形式を指定できます。詳細は、Oracle Connector for Outlook のオンライン・ヘルプの「**名前の形式の選択**」を参照してください。

IMAP メール・サーバーへの接続

IMAP サーバーは、受信メールを受け取り、格納します。

IMAP サーバー接続を構成するには、次の手順を実行します。

1. 「Oracle Connector for Outlook」ダイアログ・ボックスの「**IMAP4**」タブを選択します。
2. 次の情報を入力します。
 - 「**IMAP アカウントなし**」チェックボックスを選択すると、受信メールへのアクセス機能を使用せずに Oracle Connector for Outlook を使用できます。
 - 「**サーバー名**」フィールドで IMAP サーバー名を指定します。
 - 表示されたフィールドでアカウント名とパスワードを指定します。Calendar Server に指定したユーザー名とパスワードを使用するには、「**Oracle Calendar サーバーと同じ設定を使用**」チェックボックスを選択します。接続するたびにパスワードを入力しないようにするには、「**パスワードリストにパスワードを保存**」チェックボックスを選択します。
 - 「**詳細**」をクリックして、IMAP サーバーのポート番号を指定するか、SSL 接続を指定します。

注意： サーバーに SSL 接続を指定する場合、ポートはデフォルトの SSL ポートに変更されます。

IMAP サーバーで Transport Layer Security (TLS) が設定されている場合、SSL 接続を指定しないかぎり、Oracle Connector for Outlook は TLS を自動的に使用します。SSL を指定した場合、Oracle Connector for Outlook は TLS ではなく SSL を使用します。

SMTP メール・サーバーへの接続

SMTP サーバーは送信メールを送ります。

SMTP サーバー接続を構成するには、次の手順を実行します。

1. 「Oracle Connector for Outlook」ダイアログ・ボックスの「**SMTP**」タブを選択します。
2. 次の情報を入力します。
 - 「**SMTP アカウントなし**」チェックボックスを選択すると、送信メールの送信機能を使用せずに Oracle Connector for Outlook を使用できます。
 - 「**サーバー名**」フィールドで SMTP サーバー名を指定します。

- SMTP サーバーでユーザー名とパスワードが必要な場合は、「このサーバーは認証が必要」チェックボックスを選択します。「設定」をクリックして、ユーザー名とパスワードを指定します。IMAP サーバーに指定したアカウント名とパスワードを自動的に使用するには、「受信メールサーバーと同じ設定を使用」チェックボックスを選択します。接続するたびにパスワードを入力しないようにするには、「パスワードリストにパスワードを保存」チェックボックスを選択します。
- 表示名と電子メール・アドレスを入力します。送信メールに含める組織および返信アドレスを指定することもできます。これら 2 つのフィールドはオプションです。これらのフィールドを空白にしても、入力を求めるメッセージは表示されません。
- 「詳細」をクリックして、SMTP サーバーのポート番号の指定、SSL 接続の指定、SMTP サーバーが自動的に未送信メッセージの再送信を試みる頻度の設定を行います。

注意： サーバーに SSL 接続を指定する場合、ポートはデフォルトの SSL ポートに変更されます。

SMTP サーバーで Transport Layer Security (TLS) が設定されている場合、SSL 接続を指定しないかぎり、Oracle Connector for Outlook は TLS を自動的に使用します。SSL を指定した場合、Oracle Connector for Outlook は TLS ではなく SSL を使用します。

Oracle Connector for Outlook には、他にも多数の構成オプションがあります。詳細は、Oracle Connector for Outlook のオンライン・ヘルプを参照してください。

トラブルシューティングおよび FAQ

トラブルシューティングおよび FAQ については、次の Web サイトを参照してください。

http://www.oracle.com/technology/products/cs/user_info/ocalendar/ocfo_index.html

Oracle Calendar Web Client

Oracle Calendar Web Client は、インターネットを介してどこからでもアクセスできるアプリケーションで、自分の時間を効率的に管理するために必要なあらゆるツールを提供します。Oracle Calendar Web Client の直感的なインタフェースを使用して、他のユーザーとの Web 会議のスケジュールリングと会議への参加、競合のチェック、リソースの予約、権限の割当て、メモの作成およびタスクの管理を行えます。Oracle Calendar アカウントのないユーザーのために予定表を公開したり、パートナーへのスケジュールの送信、全従業員に対するリソースの予約状況の公開などの機能も使用できます。Oracle Calendar Web Client は、Calendar Server に直接接続するため、すべての変更がリアルタイムで更新されます。

Oracle Calendar Web Client は Oracle Collaboration Suite と緊密に統合され、共同作業を必要とする企業環境を強化します。シングル・サインオンにより、一度認証を受けるだけで、カレンダー、電子メール、ファイル、ワイヤレス作業環境、および他の Oracle Collaboration Suite アプリケーションにアクセスできます。

Oracle Calendar Web Client は、複数のブラウザおよびプラットフォームで動作します。

この章の内容は次のとおりです。

- システム要件
- Oracle Calendar Web Client のインストール
- トラブルシューティングおよび FAQ

システム要件

次のブラウザをサポートしています。

- Internet Explorer 5.x、6.x (Windows)
- Internet Explorer 5.x (Macintosh)
- Netscape 6.x、7.x (Linux、Macintosh、Windows)
- Mozilla (Linux、Macintosh、Windows)
- Safari (Macintosh)

Oracle Calendar Web Client のインストール

Oracle Calendar Web Client は、Oracle Collaboration Suite のインストール時にインストールされます。Oracle Calendar Web Client の URL はカレンダー管理者から提供されます。

トラブルシューティングおよび FAQ

トラブルシューティングおよび FAQ については、次の Web サイトを参照してください。

http://www.oracle.com/technology/products/cs/user_info/ocalendar/web_index.html

Oracle Calendar Desktop Client

Oracle Calendar Desktop Client を使用して、会議、メモ、終日イベントおよびタスクの作成と管理ができます。他のユーザーから代理権を付与されている場合、そのユーザーにかわって予定表エントリを作成できます。使いやすく結合されたグループ・ビューを使用して、複数のスケジュールや他のユーザーの予定を簡単に比較し確認して、会議を作成する前にスケジュールの競合をチェックできます。Oracle Calendar Desktop Client にはオンラインのアドレス帳が含まれます。これを使用して連絡先を把握し、設定可能なカテゴリに従って分類できます。

Oracle Calendar Desktop Client は、Windows、Macintosh、Linux および Solaris で使用できます。

この章の内容は次のとおりです。

- [Windows でのインストール手順](#)
- [Macintosh でのインストール手順](#)
- [Linux でのインストール手順](#)
- [トラブルシューティングおよび FAQ](#)

Windows でのインストール手順

この項の内容は次のとおりです。

- [システム要件](#)
- [Oracle Calendar Desktop Client for Windows のインストール](#)

システム要件

表 4-1 Oracle Calendar Desktop Client for Windows のシステム要件

要件	値
オペレーティング・システム	<ul style="list-style-type: none">■ Windows 98■ Windows Me■ Windows NT■ Windows 2000■ Windows XP Home■ Windows XP Professional <p>Oracle Calendar Desktop Client for Windows を Windows NT コンピュータにインストールする場合、Microsoft Windows Service Pack 6 以上をインストールする必要があります。</p> <p>Windows NT、2000 および XP に Oracle Calendar Desktop Client for Windows をインストールするには管理者権限が必要です。</p>
ディスク容量	25MB
RAM	20MB 以上
Calendar Server	<ul style="list-style-type: none">■ Oracle CorporateTime Server 5.4■ Oracle Calendar Server 5.5■ Oracle Calendar Server 9.0.4.x

Oracle Calendar Desktop Client for Windows のインストール

1. Windows NT、2000 または XP にインストールする場合は、管理者権限でログインします。
2. 自己展開型の実行可能ファイル `cal_win_904x.exe` を実行し、画面の指示に従います。

Macintosh でのインストール手順

この項の内容は次のとおりです。

- [システム要件](#)
- [Oracle Calendar Desktop Client for Macintosh のインストール](#)

システム要件

表 4-2 Oracle Calendar Desktop Client for Macintosh のシステム要件

要件	値
オペレーティング・システム	Mac OS 9.x (CarbonLib 1.6 付属)、Mac OS X 10.1.4 ~ 10.3
ディスク容量	20MB 以上
RAM	12MB

表 4-2 Oracle Calendar Desktop Client for Macintosh のシステム要件（続き）

要件	値
Calendar Server	<ul style="list-style-type: none"> ■ Oracle CorporateTime Server 5.4 ■ Oracle Calendar Server 5.5 ■ Oracle Calendar Server 9.0.4.x

Oracle Calendar Desktop Client for Macintosh のインストール

Mac OS 9.x

ここでは、Mac OS 9.x に Oracle Calendar Desktop Client for Macintosh をインストールする方法について説明します。

1. 管理権限があることを確認します。
2. CarbonLib ファイルが、インストーラを実行するアクティブなシステム・フォルダの「機能拡張」フォルダにインストールされていることを確認します。
3. cal_mac_OS9_904x.hqx をダブルクリックし、画面上の指示に従います。

インストーラによってアプリケーションが展開され、選択したインストール先のフォルダに Readme.htm ファイルがコピーされます。また、すべての共有ライブラリが「機能拡張」フォルダに、Oracle Calendar Help がシステム・フォルダの「ヘルプ」フォルダに展開されます。

CarbonLib ファイルがバージョン 1.6 より前の場合は更新されます。コンピュータを再起動して、新しいファイル・バージョンを有効にします。

Mac OS X

ここでは、Mac OS X に Oracle Calendar Desktop Client for Macintosh をインストールする方法について説明します。

1. 管理権限があることを確認します。
2. cal_mac_OSX_904x.hqx をダブルクリックし、画面上の指示に従います。

インストーラによってアプリケーションが展開され、選択したインストール先のフォルダに Readme.htm ファイルがコピーされます。すべての共有ライブラリが /Library/CFMSupport/ フォルダに、Oracle Calendar Help フォルダが /Library/Documentation/Help/ フォルダに展開されます。

Linux でのインストール手順

この項の内容は次のとおりです。

- [システム要件](#)
- [Oracle Calendar Desktop Client for Linux のインストール](#)

システム要件

表 4-3 Oracle Calendar Desktop Client for Linux のシステム要件

要件	値
オペレーティング・システム	<ul style="list-style-type: none"> ■ Red Hat Linux 7.x ～ 9.0 ■ SuSE Linux 7.1 ■ kernel 2.4.x 以上の Linux x86
ディスク容量	33MB

表 4-3 Oracle Calendar Desktop Client for Linux のシステム要件（続き）

要件	値
RAM	15 ～ 20MB
Calendar Server	<ul style="list-style-type: none"> ■ Oracle CorporateTime Server 5.4 ■ Oracle Calendar Server 5.5 ■ Oracle Calendar Server 9.0.4.x

Oracle Calendar Desktop Client for Linux のインストール

ここでは、Linux に Oracle Calendar Desktop Client をインストールする方法について説明します。

1. 一時ディレクトリに配布アーカイブを開きます。次の手順では、/tmp というサンプル・ディレクトリを使用します。

```
cd /tmp
gtar zxvf /tmp/cal_linux_904x.tar.gz
```

2. OracleCalendar_inst ディレクトリに移動します。

```
cd OracleCalendar_inst
```

3. フル・グラフィック・インタフェースを使用してインストールする場合は、gui_install.sh を実行します。テキスト・モード・インタフェースを使用してインストールする場合は、text_install.sh を実行します。インストール先とショートカットのディレクトリを指定するよう求められます。

システム要件

表 4-4 Oracle Calendar Desktop Client for Solaris のシステム要件

要件	値
オペレーティング・システム	<p>Solaris 8、9（SPARC のみ）</p> <p>Oracle Calendar Desktop Client のオンライン・ヘルプを使用する場合は、リリース 4.0 以上の Netscape Navigator または Netscape Communicator が必要です。Netscape の実行可能ファイルを含むディレクトリをパスに設定する必要があります。</p>
ディスク容量	40MB
RAM	20 ～ 25MB
Calendar Server	<ul style="list-style-type: none"> ■ Oracle CorporateTime Server 5.4 ■ Oracle Calendar Server 5.5 ■ Oracle Calendar Server 9.0.4.x

Oracle Calendar Desktop Client for Solaris のインストール

ここでは、Oracle Calendar Desktop Client for Solaris のインストール方法について説明します。

1. 一時ディレクトリに配布アーカイブを復元します。次のコマンドでは、/tmp というサンプル・ディレクトリを使用します。

```
cd /tmp
gtar zxvf /tmp/cal_sun_os_904x.tar.gz
```

2. OracleCalendar_inst ディレクトリに移動します。

```
cd OracleCalendar_inst
```

3. フル・グラフィック・インタフェースを使用してインストールする場合は、`gui_install.sh` を実行します。テキスト・モード・インタフェースを使用してインストールする場合は、`text_install.sh` を実行します。インストール先とショートカットのディレクトリを指定するよう求められます。

トラブルシューティングおよび FAQ

トラブルシューティングおよび FAQ については、次の Web サイトを参照してください。

http://www.oracle.com/technology/products/cs/user_info/ocalendar/desktop_index.html

Oracle Sync Server

Oracle Sync Server は、OMA-DS (Open Mobile Alliance - Data Synchronization) プロトコル (以前の SyncML プロトコル) を使用して、各種の OMA-DS 対応デバイスとデータの真のリモート同期を行います。デスクトップと PDA 間の同期にかわるこの方法では、どこにいても最新の情報を入手できます。

Oracle Sync Server は、標準的な HTTP 接続を介して Oracle Calendar Server との間で直接双方向の同期を提供します。つまり、インターネット・アクセスによって、様々な OMA-DS 準拠デバイスからカレンダー・インフラストラクチャにアクセスできます。Oracle Sync Server を使用すれば、デスクトップ以外でも同期を実行することができます。

Oracle Sync Server の関連情報は、新しいデバイスが Oracle Sync Server で使用可能になった際に、Oracle がこれらのデバイスに関する有効な情報を顧客にポストできるようにオンラインでメンテナンスされます。Oracle Sync Server の詳細、およびモバイル機器の設定の詳細は、次のオンライン・ページを参照してください。

Oracle Sync Server - Getting Started

これは、Oracle Sync Server リリース 2 (9.0.4.2.x 以上) のメインのオンライン・リソースです。このページには、Oracle Sync Server で使用するためのデバイスの設定に必要なリンク (サポートされているすべてのデバイスの固有の制限、パッチ、構成および同期情報など) が含まれています。

http://www.oracle.com/technology/products/cs/user_info/ocalendar/html/sync_server_get_started.html

Supported Devices

このセクションでは、Oracle Sync Server での使用がサポートされている OMA-DS 準拠のデバイスを示しています。

http://www.oracle.com/technology/products/cs/user_info/ocalendar/html/sync_server.htm#supporteddevices

Backing up your Palm data

このセクションでは、HotSync を使用してローカルに Palm デバイスをバックアップするための手順を説明しています。

http://www.oracle.com/technology/products/cs/user_info/ocalendar/html/sync_server.htm#backingupdata

Understanding how devices handle different types of data

このセクションでは、様々なデバイスと Oracle Sync Server 間で、アラーム、アクセス・レベル、タスクの優先順位および詳細な説明がどのように同期されるかを説明しています。

http://www.oracle.com/technology/products/cs/user_info/ocalendar/html/sync_server.htm#generalconsiderations

Customizing Synchronization

このセクションでは、サポートされているデバイスでの情報の同期方法をどのようにカスタマイズするかを説明しています。

http://www.oracle.com/technology/products/cs/user_info/ocalendar/html/sync_server.htm#customizingsync

Safely resetting data on your device

このセクションでは、デバイスを安全にリセットして、異なるタイムゾーンで同期を行ったときや、夏時間に変更した後に発生した技術的な障害や問題によって破損した情報を削除する方法を説明しています。

http://www.oracle.com/technology/products/cs/user_info/ocalendar/html/sync_server.htm#resettingdata

Device-specific considerations

このセクションでは、サポートされているデバイスの同期動作によって Oracle Sync Server で発生する問題を説明しています。

http://www.oracle.com/technology/products/cs/user_info/ocalendar/html/sync_server.htm#deviceconsiderations

Configuring devices for Oracle Sync Server

このセクションでは、サポートされているモバイル機器の設定手順を説明しています。

http://www.oracle.com/technology/products/cs/user_info/ocalendar/html/sync_server.htm#configuringsyncserver

トラブルシューティングおよび FAQ

Oracle Sync Server の FAQ については、次の Web サイトを参照してください。

http://www.oracle.com/technology/products/cs/user_info/ocalendar/sync_server_index.html

Oracle Calendar Sync

Oracle Calendar Sync は、Windows 用および Macintosh 用の Palm OS、または Windows CE を使用する PDA デバイスと、Oracle Calendar データを同期します。会議、連絡先、メモ、終日イベント、休日およびタスクを携帯端末にダウンロードし、デバイスの同期プロセスを使用して Oracle Calendar に更新内容をアップロードすることができます。これにより、Personal Digital Assistant (PDA) より一段上の機能が得られ、デスクトップのデータではなくサーバー上のデータと直接同期することができます。

Oracle Calendar Sync は、デスクトップ・アプリケーションを、カレンダー・ストアと直接リンクしたコンジットに置き換えます。Oracle Calendar Sync の「作業環境」メニューでは、同期する情報量をカスタマイズしたり、参加者リストや会議の詳細をダウンロードできます。

この章の内容は次のとおりです。

- [Oracle Calendar Sync for Palm \(Windows\) のインストール手順](#)
- [Oracle Calendar Sync for Palm \(Macintosh\) のインストール手順](#)
- [Oracle Calendar Sync for Pocket PC のインストール手順](#)
- [トラブルシューティングおよび FAQ](#)

Oracle Calendar Sync for Palm (Windows) のインストール手順

この項の内容は次のとおりです。

- システム要件
- [Oracle Calendar Sync for Palm \(Windows\) のインストール](#)

システム要件

表 6-1 Oracle Calendar Sync for Palm (Windows) のシステム要件

要件	値
オペレーティング・システム	<ul style="list-style-type: none"> ■ Windows 98 ■ Windows 2000 ■ Windows Me ■ Windows XP ■ Windows NT 4.0
ディスク容量	75MB
RAM	64MB
Calendar Server	<ul style="list-style-type: none"> ■ CorporateTime Server 5.4 ■ Oracle Calendar Server 5.5 ■ Oracle Calendar Server 9.0.4
Palm Desktop	Palm Desktop 3.1 ~ 4.1
デバイス	<ul style="list-style-type: none"> ■ Palm m100、m500、m505、III、IIIx、V、Vx、Tungsten T、Tungsten W ■ Handspring Visor

Oracle Calendar Sync for Palm (Windows) のインストール

旧バージョンの Oracle Calendar Sync (CorporateSync) がインストールされている場合は、Oracle Calendar Sync for Palm (Windows) をインストールする前に同期を実行することをお勧めします。

1. コンピュータに HotSync がインストールされていることを確認します。
2. 配布パッケージに付属の cal_syncpalm_win_904x.exe セットアップ・プログラムを実行し、画面上の InstallShield の手順に従います。
3. インストール・タイプを選択します。「カスタム」を選択した場合、「この機能をローカルのハードディスク・ドライブにインストールします」と「この機能およびすべてのサブ機能をローカルのハードディスク・ドライブにインストールします」は同じことです。インストールするコンジットを選択します。
4. ユーザー名、パスワード、Calendar Server、ノード ID などのユーザー情報を入力します。
5. 画面上の指示に従って、インストールを完了します。
6. デバイスがクレドル内にあることを確認し、同期を実行します。インストール後に初めてこの作業を行う場合、完全同期が実行されます。

Oracle Calendar Sync for Palm (Macintosh) のインストール手順

この項の内容は次のとおりです。

- システム要件
- [Oracle Calendar Sync for Palm \(Macintosh\) のインストール](#)

システム要件

表 6-2 Oracle Calendar Sync for Palm (Macintosh) のシステム要件

要件	値
オペレーティング・システム	Mac OS 9 または Mac OS X 10.1.4 ~ 10.2.6。 注意: Oracle Collaboration Suite Release 2 Patch Set 1 (9.0.4.2.0) では、Mac OS 9.22 ~ OS 10.3 をサポートしています。
ディスク容量	15MB。Oracle Calendar Desktop Client for Macintosh がすでにインストールされている場合、必要なディスク容量は 5MB のみです。
RAM	8MB (64MB を推奨)
Calendar Server	<ul style="list-style-type: none"> ■ Oracle CorporateTime Server 5.4 ■ Oracle Calendar Server 5.5 ■ Oracle Calendar Server 9.0.4.x
Palm	Palm Desktop バージョン 4.0
デバイス	Palm OS 3.3 ~ 3.5x、Palm OS 4 または Palm OS 5 を実行する任意の Palm 互換デバイス

Oracle Calendar Sync for Palm (Macintosh) のインストール

1. cal_syncpalm_macOS9_904.hqx ファイル (Mac OS X を使用している場合は cal_syncpalm_macOSX_904.hqx) をダブルクリックします。これによって、Oracle Calendar Sync インストーラが作成されます。
2. 「Oracle Calendar Sync Install」をダブルクリックします。インストーラによって既存の Sync ファイルがチェックされ、プログラムがインストールされます。設定によっては、数分かかることがあります。エラー・メッセージが生成され、インストール・ログに保存される場合があります。これらのメッセージは無視してかまいません。
3. Oracle Calendar Sync.prc を /Applications/Palm /Add-on/ ディレクトリから /Users/user/Documents/Palm/Users/user /Files to Install/ ディレクトリにコピーします。user は対象の Mac ユーザーの名前です。

Palm Desktop をインストールした直後で Files to Install フォルダが存在しない場合、手動でこのフォルダを作成します。

注意: 予定表および To Do 用のコンジットを「Disabled Conduits」という名前のフォルダに移動します。

4. Palm オーガナイザをオンにして、クレードルに入れます。
5. Palm オーガナイザ・クレードルの前部にある「HotSync」ボタンを押します。Palm オーガナイザに Oracle Calendar Sync アプリケーションがインストールされます。

注意： HotSync ログに、Oracle Calendar Sync が見つからないことを伝えるエラー・メッセージが表示される場合があります。これらのメッセージは無視してください。

6. HotSync マネージャを実行している場合、HotSync マネージャを閉じるかどうかを尋ねるメッセージが表示されます。「はい」をクリックして、HotSync マネージャを終了します。
7. 「HotSync」フォルダの **HotSync** アイコンをクリックして、「HotSync マネージャー」を選択します。
8. 「HotSync」メニューから「動作設定」を選択します。同期可能な項目のリストが表示されます。Oracle Calendar のイベントおよびタスクの各項目をダブルクリックして、これらの同期方法を選択します。次のオプションを表示するダイアログ・ボックスが表示されます。
 - **ファイルを同期：** Palm オーガナイザと Oracle Calendar の両方に存在するすべての情報を同期します。
 - **本体が Palm Desktop を上書き：** Oracle Calendar の予定表の情報によって、Palm オーガナイザのイベント、タスク、住所が上書きされます。
 - **何もしない：** 指定されたエントリ・タイプの同期は行われません。
9. 「動作設定」ダイアログ・ボックスの上部からユーザー名を選択します。ユーザー名が 1 つしかない場合は、その名前が自動的に選択されます。
10. Palm オーガナイザで Oracle Calendar Sync を開き、Oracle Calendar のユーザー名、パスワード、サーバーおよびノード ID を入力します。この情報がわからない場合は、ネットワーク管理者に問い合わせてください。

これで Oracle Calendar Sync はインストールされましたが、エントリ情報は同期されていません。

Oracle Calendar Sync for Pocket PC のインストール手順

この項の内容は次のとおりです。

- [システム要件](#)
- [Oracle Calendar Sync for Pocket PC のインストール](#)

システム要件

表 6-3 Oracle Calendar Sync for Pocket PC

要件	値
オペレーティング・システム	<ul style="list-style-type: none"> ■ Windows 98 ■ Windows 2000 ■ Windows Me ■ Windows XP ■ Windows NT 4.0
ディスク容量	75MB
RAM	64MB
Calendar Server	<ul style="list-style-type: none"> ■ CorporateTime Server 5.4 ■ Oracle Calendar Server 5.5 ■ Oracle Calendar Server 9.0.4

表 6-3 Oracle Calendar Sync for Pocket PC (続き)

要件	値
Pocket PC	MIPS、SH3、ARM または XScale プロセッサ搭載の Pocket PC (Windows CE 3.0)
ActiveSync	バージョン 3.0 ～ 3.7 (デバイスに応じて) 旧バージョンの Microsoft ActiveSync を実行している場合、製造元でアップデート状況をチェックしてください。
デバイス	<ul style="list-style-type: none"> ■ HPC 2000 ■ Compaq iPAQ ■ HP iPAQ H1910 ■ HP Jornada 500 シリーズ ■ HP Jornada 700 シリーズ ■ Handheld PC ■ Pocket PC 2002

Oracle Calendar Sync for Pocket PC のインストール

旧バージョンの Oracle Calendar Sync (CorporateSync) がインストールされている場合は、Oracle Calendar Sync for Pocket PC をインストールする前に同期を実行することをお勧めします。

1. コンピュータに ActiveSync がインストールされていることを確認します。
2. 配布パッケージに付属の cal_syncppc_win_904x.exe セットアップ・プログラムを実行し、画面上の InstallShield の手順に従います。
3. インストール・タイプを選択します。「カスタム」を選択した場合、「この機能をローカルのハードディスク・ドライブにインストールします」と「この機能およびすべてのサブ機能をローカルのハードディスク・ドライブにインストールします」は同じことです。インストールするコンジットを選択します。
4. アプリケーションのプロンプトに従って、Oracle Calendar Sync のヘルパー・ファイルをインストールすることを確認します。デバイスがこれらのファイルに接続されている必要があります。

注意： 後で接続し、ファイルをインストールする場合は、Windows の「スタート」ボタンから「プログラム」→「Oracle Calendar Sync for Pocket PC」→「携帯情報端末のヘルパー・ファイルをインストール」を選択します。

5. ユーザー名、パスワード、Calendar Server、ノード ID などのユーザー情報を入力します。
6. 画面上の指示に従って、インストールを完了します。
7. デバイスをクレードルから取り外します。
8. 旧バージョンからのアップグレードの場合は、「ファイル」メニューから「パートナシップの削除」を選択します。
9. デバイスをクレードルに戻します。ActiveSync パートナシップ・ウィザードが起動します。
10. 画面上の指示に従って、新しい ActiveSync パートナシップを作成します。カレンダー、タスクおよび連絡先のプラグインとして「Oracle Calendar」を選択します。
11. Microsoft ActiveSync が自動的に開かない場合は、手動で開きます。

12. 同期が自動的に行われない場合は「同期」をクリックします。初めて同期を行う場合は、完全同期が実行されます。

トラブルシューティングおよび FAQ

トラブルシューティングおよび FAQ については、次の Web サイトを参照してください。

http://www.oracle.com/technology/products/cs/user_info/ocalendar/sync_client_index.html